



基礎演習 I

2022年1月20日

eu-info.jp



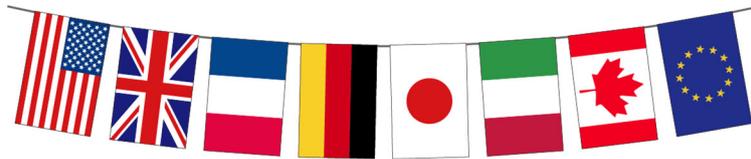
入稻福 智

下の文章内に誤りが含まれていれば、その箇所を指摘し、正しなさい。

※ テキスト 81 頁の右下の段落（「冷え込むアメリカ・ロシア関係」）の文章を参照すること。

1. 1970年代にオイルショックが発生し、世界各国の経済に大きな影響を与えると、世界の主要7ヶ国は会合を開いた。これをG7と呼ぶが、メンバーの7ヶ国はいずれも西側諸国であった。

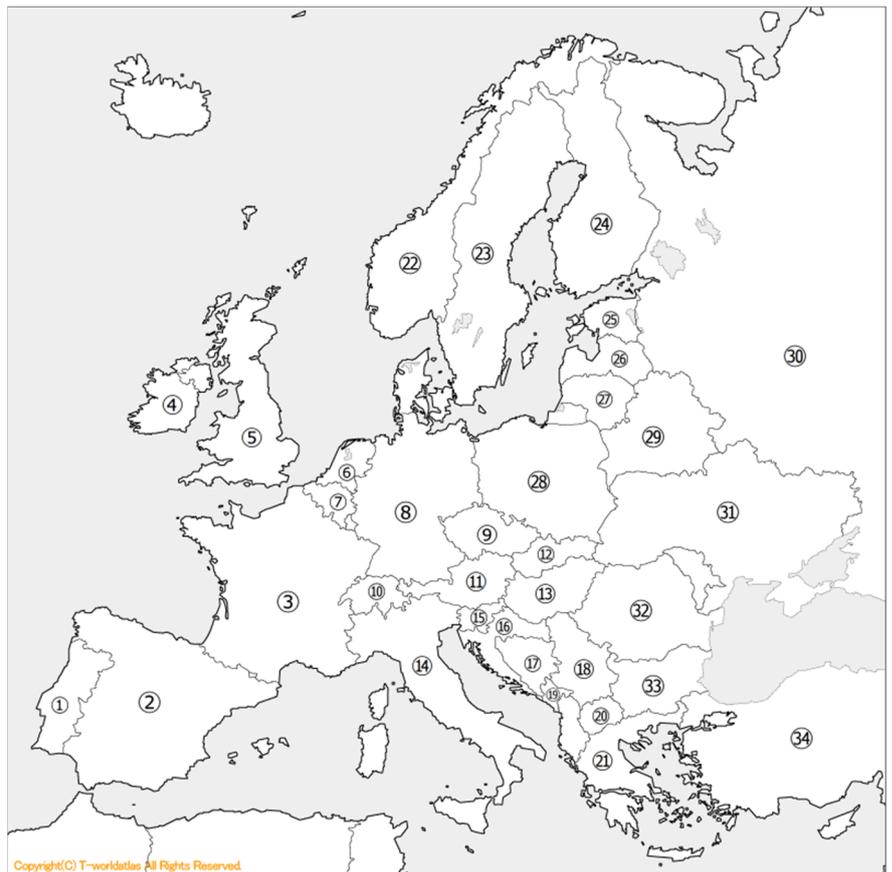
〔問題〕下のイラストはG7参加国の旗であるが、旗が8つあるのはなぜか説明しなさい。



2. 1989年に冷戦が終わり、1991年にソ連が解体されると、その地位を継承したロシアはG7に迎えられ、G7はG20に発展した。

3. ロシアのプーチン大統領は、対立する野党の政治家を逮捕したり、隣国ウクライナと軍事衝突を起こしたりしたため、2015年、G8から除名された。

〔問題〕左の地図で、ロシアとウクライナの番号を答えなさい。



4. 米国に次ぐ世界第2位の経済・軍事大国となった中国はG7には参加していないが、G20には参加している（テキスト33頁参照）。

5. 近年、急速に経済成長を遂げているブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカは、これらの5ヶ国の頭文字をとり、BRICSと呼ばれるが、これらの国はすべてG20のメンバーである（テキスト33頁参照）。

6. ドイツとフランスは度々、戦火を交えてきたが、1945年5月に第2次世界大戦が終わると、両国の和解を実現し、ヨーロッパに平和をもたらすため、3つのヨーロッパ共同体を設立した。これらの共同体の原加盟国は両国の他に、イタリア、オランダ、ベルギー、ルクセンブルクの6ヶ国であり、イギリスは含まれていなかったが、イギリスは1973年に加盟した（テキスト84頁参照）。

1993年11月、3つの共同体は、EU（欧州連合）に発展した。また、2004年5月には、かつての東側諸国もEUに加盟するようになったが、イギリスにはこれらの新規加盟国から大勢の労働者が移住してくるようになった。イギリス国民はこれに不満を抱き、2020年1月、EUから脱退した。

7. 冷戦終結後、かつての東側諸国の多くはEU（欧州連合）だけではなく、NATO（北大西洋条約機構）に加盟しているが、現在、ロシアは、同じくソ連に加盟していたウクライナがEUとNATOに加盟しようとしていることに反発している。それは、ウクライナの加盟が実現すれば、自国の安全保障が脅かされるとロシアは考えているためである。

ロシアはウクライナの加盟を認めないよう、EUとNATOに要請しているが、EUとNATOは、加盟するかどうかは各国が決める問題であるとし、ロシアの要求を退けている。そのため、ロシアは軍隊をウクライナに派遣し、同国のEU・NATO加盟を武力で阻止しようとしている（テキスト81頁参照）。